ふるさとの民話　（第三十五話）

『若宮の神さんと四ヶ村祭』

院内の四ヶ村祭の神さんは、八幡様で、鎌倉の八幡宮の分身を、お請け申して、まつられたものである。

その昔、白馬村の「とびすけ」さん、下村の「もっとも」さん、飯川村能登坂の「ひちりよも」さん、若林村荒牧の「へようよも」さんの四人が、はるばる、鎌倉まで出向いて、鶴ヶ岡八幡宮の分身を、お請け申して、今の院内の若宮に、ましましたのが、始まりだそうな。

以後、毎年の祭礼には、、この四人は、乗馬で神主さんと共に、お供をし、御輿は、四人の私宅へも、お巡りになったそうな。

四ヶ村祭は、年とともに変わり、現在、御輿も出さず、簡素になっている。また、順路も、相当、変わってきていて、若林の荒牧に（現在、踊り場となっているところに）、当時は、露天に筵を敷いて、御輿を招待していたそうな。

この四人の人は、神さんをお請けしてきた功績か、それとも、別の意味か、はっきりしないが、苗字が許されていたという。

（若林町　竹内　喜男　集録）

→